

④2 佐和駅周辺地区整備事業

受賞機関 ひたちなか市

キーワード 駅周辺、交通結節機能強化、都市基盤整備、自由通路、駅前広場

全建賞審査委員会の評価ポイント

東西自由通路・新駅舎・駅前広場・自転車駐車場の整備と佐和駅東土地区画整理事業を一体的に進め、交通結節機能の強化と歩行者動線の再編を図るとともに、茨城大学との連携によるデザインコンセプトの策定や地元高校生との意見交換等を通じ、居住人口の増加や地価上昇等のエリア価値向上を実現した点が評価された。

1. はじめに

茨城県ひたちなか市では、「コンパクト・プラス・ネットワーク」型の都市構造を確立するため、佐和駅周辺地区を都市拠点の一つに位置づけ、都市基盤の整備・再編を重点的に推進した。整備前の同地区は、JR常磐線による東西市街地の分断、朝夕の駅前広場の混雑や鉄道横断部周辺道路の交通渋滞といった課題を抱えていた。

2. 事業の概要

本事業は、佐和駅周辺地区の交通結節機能と拠点形成機能を高めるため、東西自由通路（延長約80m）の整備と新駅舎（約590㎡）の橋上化、駅前広場整備（合計10,000㎡）をはじめとする駅周辺の都市基盤について、佐和駅東土地区画整理事業（56.7ha）と緊密に連携しながら、一体的に整備・再編することで、地域が抱える課題の解決を目指した。



佐和駅東西自由通路及び新駅舎と駅前広場

事業の推進に当たり、新たな拠点としてにぎわいの場となることを期待する市民の声に応えるため、茨城大学との連携により、地域のシンボルに相応しいデザインコンセプトを策定した。この考え方をもとに、地元自治会や佐和高校の生徒との意見交換を通じ、広く意見を取り入れ、施設の意匠を決定した。また、駅前広場の設計時にも、佐和高校の生徒との意見交換を行いながら、駅のデザインコンセプトを踏襲することで、駅と駅前広場が調和する都市空間の形成を図った。

地元住民に関心を持ってもらうための情報提供や住民

参画の場を継続的に設けることで、供用後のにぎわい創出に向け、機運の醸成に努めた。その結果、東西の駅前広場では地元商工会議所によるイルミネーションイベントが定期的で開催されるようになり、新たなにぎわいの拠点として定着しつつある。



佐和駅西口広場のイルミネーションイベント

3. 事業の成果

都市基盤整備の一体的推進により、エリアの価値を高めるつながるまちづくりの効果が着実に現れている。東口の開設により、地域の長年の課題であった市街地の分断が解消され、佐野図書館から佐和駅までの所要時間が1/10に短縮された。また、佐和駅周辺の踏切交通量が事業前と比べて46%減少するなど、アクセス性と安全性が大幅に向上した。さらに、コミュニティバスや企業バスの新たな乗り入れが実現し、駅周辺のバリアフリー化率は8%から50%に向上するなど、地区全体の交通結節機能や拠点形成機能の強化が図られた。

本事業を通じて、利便性や安全性、そしてまちの魅力が相乗的に向上したことで区域内居住人口が2.5%増加し、地価公示価格が7.6%上昇するなどエリア価値の向上を示す成果が見られた。

4. おわりに

今後は、本事業により整備を進めてきた都市基盤を活かし、引き続き佐和駅東土地区画整理事業による良好な住環境整備を進めるとともに、日常生活に必要な都市機能を適切に誘導する取組を進めていくことが重要である。これらの取組により、地域の活性化、土地利用の促進、市民や民間事業者によるにぎわいの創出等につながり、佐和駅周辺地区の更なる発展が期待される。